



逆転世界!

男だった俺が母になっていくまでの話

あまりの快樂

逃げられないよ
一番深いところ

が
い
っ
ぱ
い
エ
ッ
チ
し
て

E
N

つい最近まで自分が男だったんだと言って
信じてくれる人間はどれくらいいるだろうか？

学校でも家でも女として扱われている相手に
そんなこと言われても俺だったら信じない。

自分がその立場になってしまいうまでは。

そう、俺は女になってしまったのだ。



こうなってしまった時の記憶は曖昧だ。

確か飲み会の帰りに変な店を見つけてそこの店主にバイトでの愚痴を言っていた気がする。



「酔っていた時の記憶なんてあまり当てにならないけど、そういえばあの時こんな苦勞するなら男じゃなくて女に生まれたかったって言ったような……」

「そうだ……！ したらあの店主に『それじゃあ、女にしてあげようか』って言われたんだ！」



そこから先は覚えていないが多分俺は喜んで返事をしたのだろう。

まさか本当に女になるなんて思っていなかった。ただろうしな。おそらく原因はそれだろう。



(普通だったたら何を馬鹿なって思っちまうよな)

だが、今は自分が普通じゃない事を体験して
いるのだ。

今更あの店主の言葉を信じないわけにはい
かない。



(まあ、それに別にこの体で困ることもないしな)

(周りは俺が最初から女だったように扱うし、
家族写真でも写っているのは女の姿の俺だしな)



「…それにしても我ながらいい体だよな」

「胸もでかいし元が俺だって思えないぐらい可愛いしな」

自分が男のまままで近くにこんな女がいたら
ほっとかなかっただろう。

……まあ、今は女なのだが。



「外で歩いていても色んな男の視線を感じるし、他の男も頭の中でこの体を犯したりする妄想をしてるのかな」



「そう言えば女の体って男より気持ちいいらしいけど……実際どうなんだろう」

指が下腹部に伸び秘所を触ろうとするが指が触れる前に止めてしまう。

「……やっぱ、今は止めとくか一人でするのもなんか怖いし」



「うっ、お姉ちゃんのおっぱいムニムニして気持ちいい♡はあはあ♡チンコおっぱいに食べられちゃってる♡」

「っ♡気持ちよすぎて腰が止まらないよ。どうしようお姉ちゃんが起きちゃうかもしれないのに」

「ムニムニ... ずぶ♡」

ずぶ♡

「うっ...」





《……いや、実はもう起きてるんだけどな》

《それにしてもどうしよう。まさか弟にエロイ事
されるなんて思ってもいなかったぞ》

《……まあ、気持ちには分かるがこのまま気付かな
いフリをしたらエスカレートしそうだし注意
しなくちゃな》



「っ…出るっ！お姉ちゃんのおっぱいの中から出ち
やうっ！」

びゅるっ！びゅるる…

「っ…ああっ！」

「ん…」

ずぶっ


ずぶっ

んっ…



「……おはよう」


「え……あ、あうり!? お、お姉ちゃん!」



俺がいきなり目を開けたので驚いたのだろう。
今の状況に何も弁解する事もできずにアタフタ
とする。

そりゃあそうだろう俺だって同じような状況にな
ったら混乱して何も言えなくなる。

俺は混乱する弟に落ち着かせるように言い聞か
せながら今回の事を注意する。



「……まあ、お前ぐらいの年齢になったら女の
体に興味を持つてもおかしくないけど、寝てい
る相手に勝手にエッチなことしちやいけないん
だからな」


「ぐいめんざい……」

泣きそうな弟の顔を見ていたら少し胸が痛く
なる。



「……ふう、そんなに俺とエッチなことがしたいのか？」

「う、うん。僕お姉ちゃんとエッチしたい！」



男の時は生意気な弟だと思っていたがこんな
懇願するような泣き顔で求められると、下腹
部が疼いてしまい受け入れたくなくなってしま
う。
これも女になった影響なのだろうか。



「わかった。姉ちゃんが相手してやる。その代わりに他の人に無理やりエッチなことしちゃいけないからな」

「いいいの!？」

「しかたないだろ? ほっとけばお前もつとすゝいことしそうだしな」

（……まあ、俺も女の体でのセックスに興味があったし丁度いいか）

「ん、そうだ♥そのヒクヒクしている小さな穴に入れるんだ。んっ♥上手だぞ」

「あぁっ！お姉ちゃんの中に入っちゃったあ♥」

「チンコちゃんと根元まで入れられたな♥えらいぞ♥」

ずが♥

ずが♥



「そのまま腰を振ってズブズブって出し入れして
チン」気持ちよくなるんだぞ」

「ひうつ♡な、なにこれ♡気持ちよすぎておか
しくなっちゃうよ♡」

ずぶ♡


ずぶ♡



「うー!どうしようお姉ちゃん!腰が、腰が止まらないよー!」

「…いいいいんだぞ、もっと好きなように動いて♥」





(どうしちまったんだらう俺。痛いのに必死に腰を振っているこいつを見てたら嬉しくてさつきより濡れてきちまってる♥)

(俺、弟とセックスして感じてるのか?)

「うっ！お姉ちゃんの中、僕のチンコにニユルニユル絡み付いてくる！」

「うー！めん、もう出ちゃうー！」

「いいぞ♥姉ちゃんの中に好きナだけビュッビュッ出していいんだからな♥」

ずが♥

ずが♥

はぁはぁ♥

♡♡♡♡





びゅるー!びゅるんっ!

(ひぐうつ♥なんだこれ、お腹の奥に熱いのが叩きつけられてるっ♥気持ちいいのが止まらないっ♥)

ひゅるん♥

ひゅるん♥

ひゅるん♥

ひゅるん♥

「あつ♥出しちゃってる♥僕、お姉ちゃんの中に
出しちゃってるっ♥」


「が、頑張ったな♥また、したくなったらちゃんと
俺に言うんだぞ♥」

えろ...♥

はぁ...♥

えろ...♥





あの日から俺達は毎日のようにやりまくっている。
まるで覚えたての猿のように俺を求めてくる弟に
男の時には感じなかった、愛おしさすら覚える。
母性本能とでもいうのだろうか？
今でも赤ん坊のように必死に胸を吸う弟が可愛く
て仕方がない。

「ホントおっぱい好きだなお前。なんだか赤ちゃん
みたいだぞ」

「それにそんなに必死に吸ったっておっぱいは出な
いんだぞ？」

「ん♥ママあ…♥」

くちゅ たぷ たぷ



「まったくしょうがないな、この甘えん坊は。……しょうがないからこうしてエッチしてる時だけは俺がお前のママになってやるよ♥」

「ほら、ママのおっぱいは美味しいか？」

「おっぱいチュウチュウしながら勃起チンコ射精させてやるからな♥」

くちゅ たぶ たぶ





(まったく、シスコンな上にマザコンなんて困ったやつだ♥母さんにこんな事させる訳にはいかな
いし俺がちゃんと面倒見てやらないとな)

(……うん、それだけなんだ♥)

ちゅ
ちゅが
たぶ
たぶ

「ほら、ママの手でちんこシコシコされるの気持ちいいか？」

「うん♥おちんちんムズムズして気持ちいい♥」

「ふふ♥イきたくなったら我慢しないでイっていいんだからな♥」

ちんこ
くちゅ
たぶ
たぶ



(あうっ♥♥こんなに必死にしゃぶりつかれたら俺も感じてきちまう♥愛液で下着ドロドロになってきちまった♥)

「はあはあ♥ママのおっぱい^{くちゅ}柔らかくてあつたかくてずっと吸っていたいよ♥」

「ん♥いつでも好きなだけおっぱい吸って良いんだからな♥」

たぶ たぶ

ぐん♥♥



「っ♡ママ僕もっ♡」

「あっ♡手の中ですよ」いびく^{ドク}いびく^{ドク}してる♡もっ
出ちやいそうなんだな♡いいぞ♡ママの手の
中でいっぱい出させてやる♡

たぶ
たぶ

どく♡



びゅるるっ！

「あっ♥ああっ♥出ちゃってる♥ママの手の手で
イっちゃってる♥」

「いっぱい出せたな。えらいぞ♥ほら、精液でママ
の手もベトベトだ♥」

たぶ
たぶ

はあ
はあ♥
どん♥

ひゅるる♥

ひゅるる♥



「こんなに出したのにまだチンコ硬いままだな。それじゃあ、今度はママの中でビュルビュル出させてあげるからな♥」



「はっ……あ……おく、ちよ……ずつ、……ん♥入ったあ♥
いっぱい動いてあげるからな♥」

「あっ♥お姉ちゃんのオマンコ気持ちいいっ♥」

「ん?もうママじゃなくていいのか?」

「だ、だって恥ずかしいんだもん」



はっはっ♥



「別にいいんだぞ俺はママでもお姉ちゃんでも
お前の好きな方で」

「それよりほら、腰動かしてあげるから好きなだ
け甘えていいぞ♡」

「うっうっ！」

イキそうになるのを必死に我慢している顔を見てると嬉しさのあまりゾクゾクとした快感が背筋に走る。





「はっ…はっ♡んあ、あ…きも、ち…いいか？
ママの中気持ちいいだろ？好きただけ感じて
もっと気持ちよくなって良いんだぞ♡」

「ママ♥ママっ…♥」

ひたすらに快楽を求めるかのように腰を突き上げられる。

お世辞にも上手いとは言えない動きだが、必死に俺を求めてくる姿に愛おしさが増し、子宮が降りて来てしまう。



「ん♥いいぞ♥もっと俺の奥コンコンしてして
ああ♥お腹の奥突き上げられるのいいっ♥」

「ママ、もう出ちゃうっ！僕の精子ママの奥に
ビュッビュッって出すね！」





「ジュル、ジュルっ……」

「あっ♥んんっ♥なか……っ♥でて……るっ♥
ああ……っ♥精液溢れてる……っ♥」

はぁ♡はぁ♡♡

ジュル……

♡ジュル♡

ジュル♡



「半立ちチン」今おっきくしてやるからな♡
「れる♡んちゅ♡れる…♡」

はあ
はあ♡

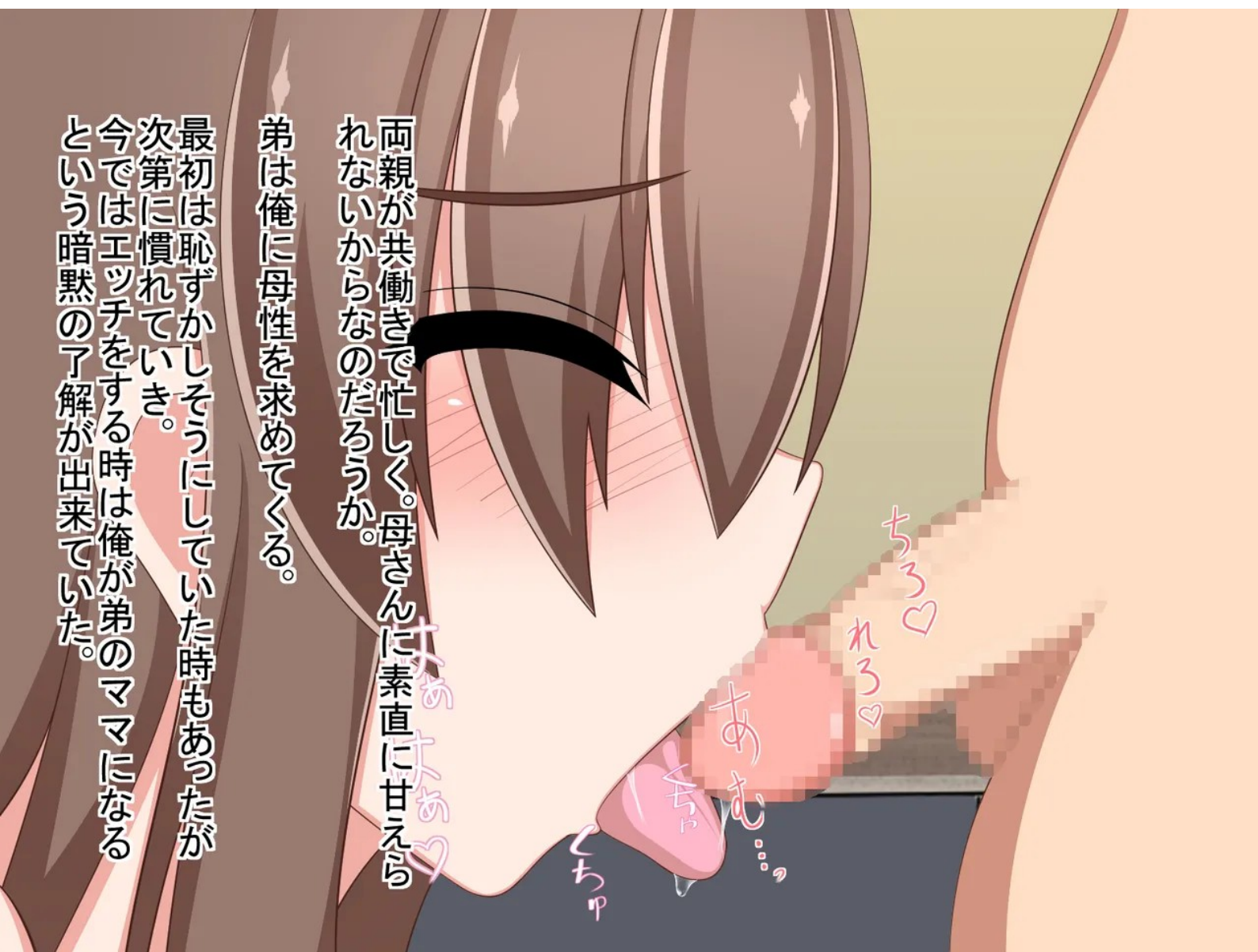
ぐちゅ

ちゅ

あむ…

れる♡

ちゅ♡



両親が共働きで忙しく。母さんに素直に甘えられないからなのだろうか。

弟は俺に母性を求めてくる。

最初は恥ずかしそうにしていた時もあったが次第に慣れていき。今ではエッチをする時は俺が弟のママになるという暗黙の了解が出来ていた。



「んっ……ちゅっ……れる♡我慢汁がトロトロ
出てきてすい、えっちな味……だ♡」
「ちゅっ、じゅる……れるっ♡」

はあ
はあ♡

ちゅっ
あむ……

ちゅっ♡
れる♡

ちゅっ



「んくっ、れる、ちゅっ、じゅるっ♡」

(ちんこ間近で見ると結構グロイ筈なのに、こうやって舌で舐めるとビクビクって動いて案外可愛いなって思えちまう♡)

はあ
はあ♡

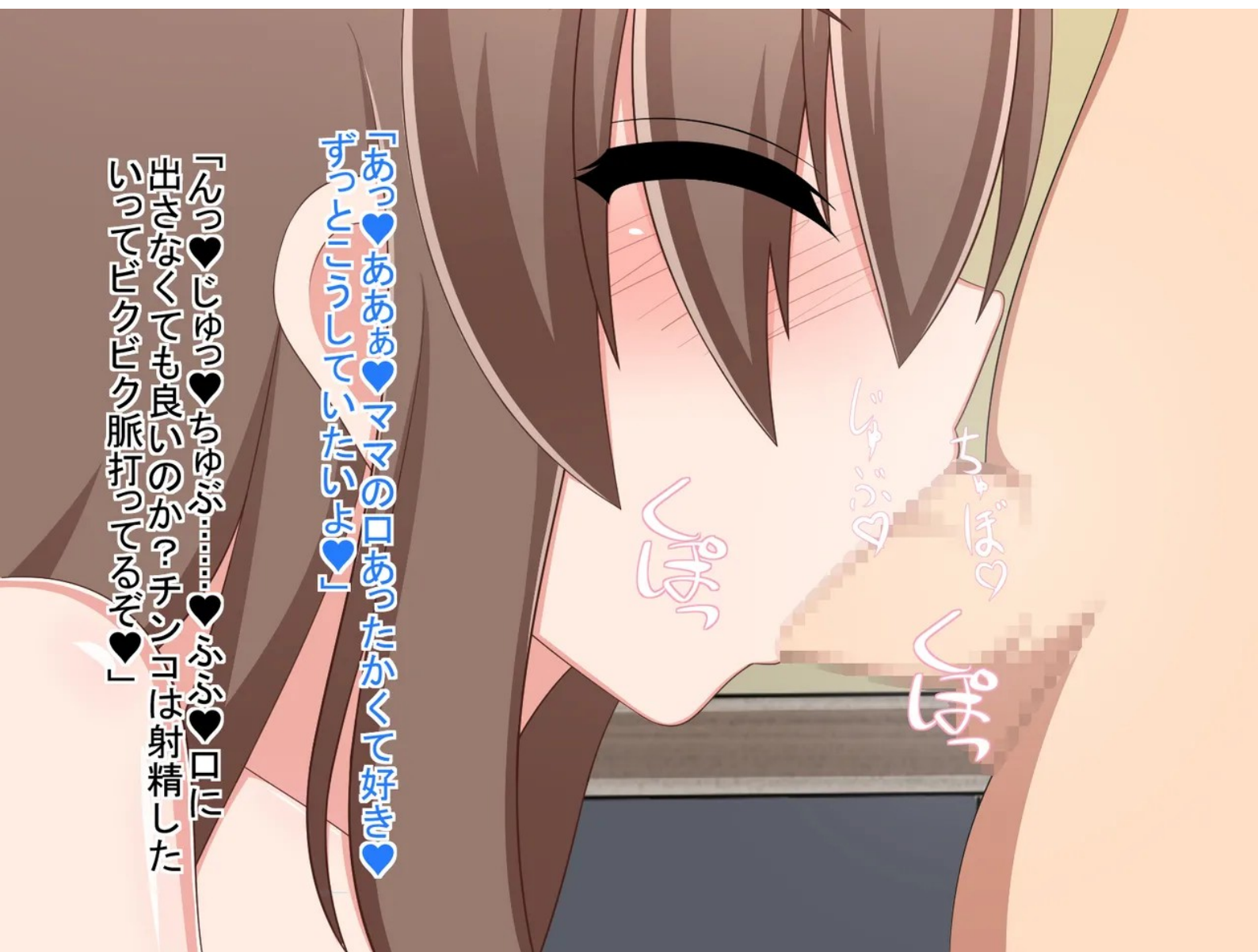
ちゅっ
すめむ...っ

くちゅ

ちゅっ♡
れる♡



「ちゅ、じゅぶ♡……大きくなってきたな♡
……んう、……んちゅっ♡じゅ……ちゆる♡
じゅるるっ♡」



「あっ♡あああ♡ママの口あつたかくて好き♡
ずっと♡ううしていたいよ♡」

「んっ♡じゅっ♡ちゅぶ……♡ふふ♡口に
出さなくても良いのか？チンコは射精した
いってビクビク脈打ってるぞ♡」



「ううん、出したいーママのお口に入りたいー
出したいー！」

「それじゃあ、いっぱい搾り取ってやるからな
んっ、ちゅぶ♥ちゅる♥ちゅるるっ♥♥♥」



「ん♡良いぞ好きただけ出しちまえ♡」

「うあ…っ…ママっ…もっほっちやっうっ…」



「んっ、「く、んぐ…っ♡」

（すごいっ♡精液が喉の奥に叩きつけられて
頭の中ククラクラする♡）

俺は自分から求めるように残りの精液を吸い
だそうと必死にしゃぶり付いてしまった。



「あ、あぁっ♡だめっ♡そんなとこ突いたらあ♡」

俺の膣の感触に夢中で腰を振る弟。
犬みたいに全力で腰を振ってきて少し苦しきも
感じるが、こいつが気持ちよさそうにしてると
なんだか俺まで気持ちよくなってくる。



「はぁ...あ、ああ♡奥に...俺の奥に入ってきちやつ
てる...♡あ♡あ♡そこ、いい♡チシコ気持ち良
いと♡」当たって♡やあ♡あ♡す♡いい♡」



「ママっ♡ママっ♡」

「ひうっ♡ふかい♡深いのお♡そんなに奥突いちゃダメえ♡」

グプッ♡
グプッ♡

ははは♡
ははは♡

♡...♡

♡...♡

♡...♡



「ああ♥膣壁にチンコ擦り付けられてるっっ♥」

(ひうつっ♥中でチンコがビクビク脈打っている
中に出したいって暴れているのが伝わる♥)

(女の体ってやっぱり気持ちいい♥)



はぁはぁ♡
♡...

♡...♡

♡
♡

「ママ出すよ！ママの一番奥に出しちゃっよー！」

「うん、だして♡ドロドロの熱い精液中に出してっ♡」



「それじゃあ、動くぞ♥…んっ♥あう…っ♥」

「はあはあ……♥すごい♥ママの中エッチする
たびどんどん気持ちよくなってる♥」

はあはあ♥
たっっ
たっっ

あうっ♥
んっ♥
あうっ♥



「はぁ…♡近親相姦セックスいい♡もっと、もっとママの中でジューブジューブしたい♡」

「っ♡は、激しい…っ♡♡♡」

「んんっ♥そこ、ズブズブって擦られるのすごい
気持ちいいっ♥」

膣壁が抉られるたび声が漏れてしまう。

(ああ…♥弟チンポが子宮口にぶつかってる♥
突き上げられてる♥)

はぁはぁ♥

たっ
たっ

あぁ♥



(どうしよう♥チンポどんどん馴染んできちまってる♥)

最近どうしたんだらう。俺の方が弟とのセックスにハマっているような気がする。

弟に甘えられながら求められたいという気持ちが大きくなってるのだ。

あぁ♡





自分の中の男が交わるたびにガリガリと削られていくような感覚に僅かに恐怖を覚えるが、その反面、女としての俺は甘えてくる弟を見ると我慢できずにより一層求めてしまう。

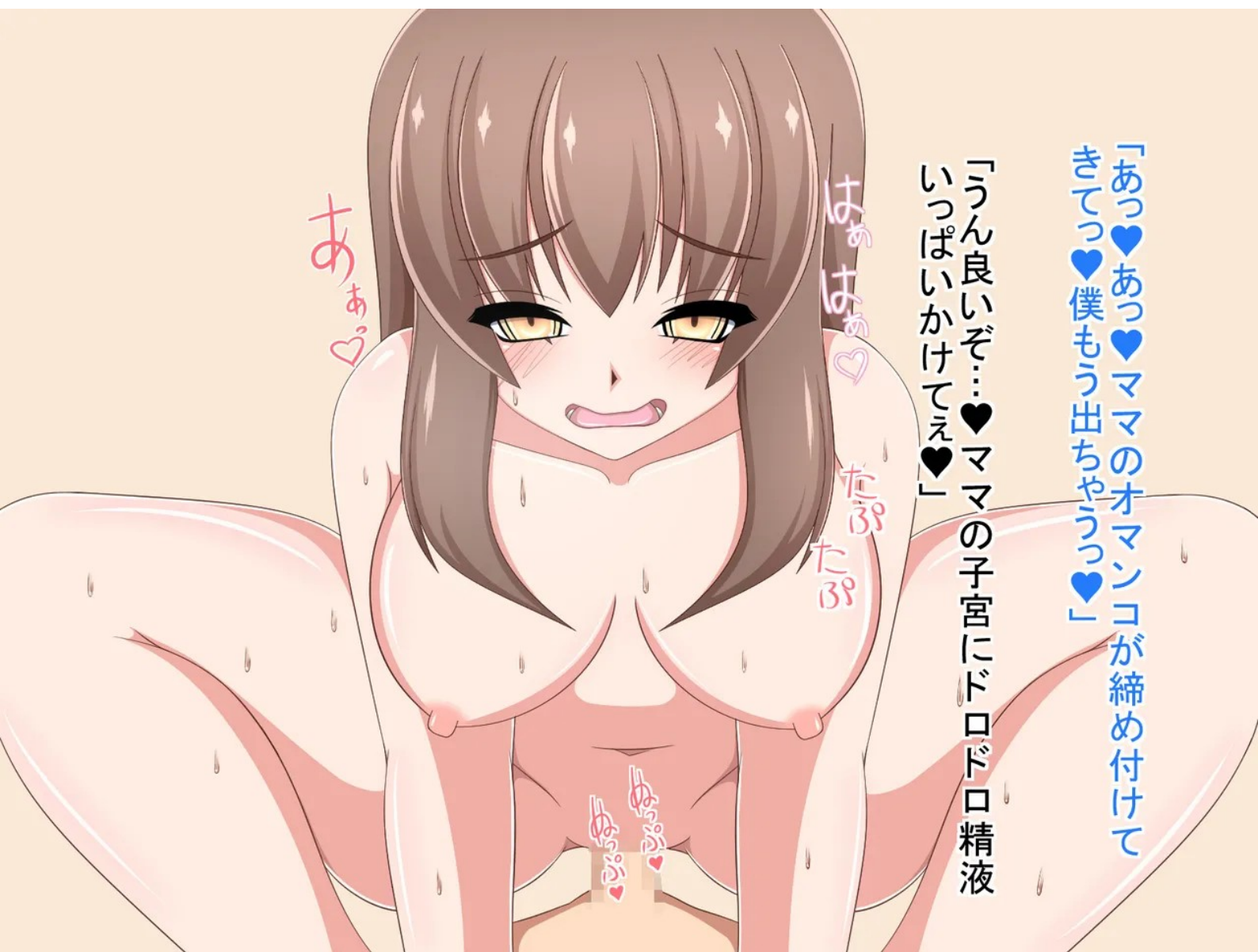


(こっちは抱かれています間はあんまり考えなくてすむけど……)

必死に母性を求める姿に過保護欲がわき、もつとしてあげたくなるからだろう。

「あっ♥あっ♥ママのオマンコが締め付けて
きてっ♥僕もう出ちゃっっ♥」

「うん良いぞ…♥ママの子宮にドロドロ精液
いっぱいかけてえ♥」



びゅくっ！びゅづるるっ！

「ひゃううっ……♡息子精液ビュッビュッって子宮に流れ込んでくる……♡」

「あぐっ♡こんなにいざなわれれば妊娠しちゃうっ♡」





「はあはあ♡気持ちよかったあ♡……ねえ、ママ
僕のおちんちんベトベトになっちゃったから
お口で綺麗にして」

「……まったくしょうがない子だな♡」

「あう♥これ柔らかくてチンコ溶けちゃいそう
だよ♥」

はまはま♥

「ふふっ、ホントおっぱい好きだなお前」

「もう、おっぱいも口もお前専用のオナホール
だぞ♥」



「ちゅぶっ、じゅるっ、んぐ、じゅるるっ♡」

(自分からチンコしゃぶりにいくなんて、傍から見れば本当に俺こいつの女になったみたいに見えるな)

(まあ、けど悪い気分じゃない。こうやって「いつとヒロイン」とするのは好きだしな♡)



「んっ、れろっ、あむ♥ちゅっじ、じゅぶっ♥…れろ♥」



はみはみ♡

くちゅ

くちゅ

ぐいっ…

ぐいっ…

「はあはあ♥ママのお口気持ちよすぎて、なっき
いったばかりなのにまたすぐイっちやいそっ」

「舌にピクピクって血管の感触が伝わってきて
るぞ♥んふふ♥もっと口とおっぱいでいじめて
あげるな♥」

「んっ…んっ…じゅる♥…ぢゅるる…ぢゅづっ♥」

ぐわっ…

ぐわっ…

♡おっぱい♡

くちゅ

くちゅ





「うーなんかすごい！むずむずが止まらない♡
「おっぱいでムニムニされて搾られちゃうっ♡」

♡おっぱい♡

ムニムニ...

ムニムニ...

くちゅ

「じゅぶ♥じゅば♥じゅる、じゅるのっ♥」

唾液と我慢汁でドロドロになっていくチンコを必死にしゃぶるりつく。

じゅぶ...

じゅぶ...

はぁはぁ♥

「ああ♥チンコ食べられちゃってる♥口の中
気持ちよすぎて溶けちゃうよお♥」

「んぶぶ♥じゅる♥れろ♥」



「あぁ♡...♡でるっ♡♡でちやっ♡♡」

「んぶっ!!んぐっ...んくっ...♡あ...♡あ...♡」

「んっ♡じゅぶ♡んく……」くっ♡

（あぁっ♡喉の奥にビュクビュク叩き付けられるの気持ちいい♡弟の精液で胃の中がいっぱいになっちゃってる♡♡♡）



フロ……♡

じゅぶ……

ぐわっ……



「あ♡ああ♡そこいい♡気持ち良いよお♡」

俺たちは親の目を盗んでは毎日のようにお互いの体を貪りあっている。

男のそれとは比べ物にならない女の快樂に俺はずっ。ふりとはまってしまっている。



だからだるうか、最近元の姿に戻ろうという考えが薄れてきている。

男の体に未練がないわけじゃないがそれでも今はこの快樂と弟との関係を手放したくないという思いの方が強いのだ。

はあはあ♡

たっ
たっ



「ママ、僕チンコ気持ちよすぎてもう、でちゃうよ」

「い…っ♡いいんだぞ、そのまま素直に気持ちよくなつて♡イキたくなつたらままの中でいっぱい出しちゃって良いんだからな♡」

はぁはぁ♡

たっ
たっ

ぬっ♡
ぬっ♡
ぬっ♡



「んっ…んっ…」

「あっ、ああ♥♥ママの赤ちゃんの部屋に『ジュッジュッ』してっっっ♥」

たば
たば
♥

たば
たば

たば
たば



いくと同時に思いっきり腰を奥に押し付けられ
射精される。

子宮口にグリグリと押し付けられながら子種
を注ぎ込まれる感覚に頭の奥がカチカチと白
く光る。

そして信じられないほどの大量の精を俺の子宮
にぶちまけられた。



「あああああっ♡中じぶぶぶぶっ♡」

(やばい…っ♡こんなにあつつくてドロドロの
精液出され続けたら心まで本当のママになっ
ちまっ♡)

ドロ…♡

た3P
た3P

はあはあ♡

「ああ……♡あ、ああ……っ♡」

「ママ、どっ気持ちいい？」

「い、いい……♡後ろからされるの好き♡あっ♡
ああ♡カリが気持ちいいとっ決ってるっ♡」





「はあはあ...♡なかズズズ出し入れされる度
におなか、こすれ、て♡こし、抜けちゃッ...♡
ちんぽがなかつ、いっぱい、突いて、ひっ♡くるっ、
来ちゃうっ...♡」

た38
た38
た38

あ♡

「あっ♥あっ♥あっ♥お、おくう♥おくにズンズン来て
るう♥子宮口とチンコがぶちゅぶちゅってチュウ
してるう♥」

「あっ♥ああ♥こんなに激しくされたらイっちゃう、
もうイっちゃう♥」

た
38
た
38

あ
っ
♥





「うっ…ママ、出すよ…ママのエッチなオマンコ
に出すからね…」

「うん♥きてえ♥中に、中に欲しいのお♥」

た38
た38
ん♥
た38
た38

たあ♥



「…あっ♡子宮のにあったかいのがゴプゴプって
ひぐう♡き、気持ちよすぎい♡」



弟のチンコを前にすると条件反射のように
膣が濡れてくる。

誘うように足を広げるが、いつもならがつつく
はずの弟が今日はやけにおとなしい。

「…ねえ、ママ。」うやあっていっぱいママの中に
出してれば赤ちゃんが出来るんだよね？」

「うん？そうだけど、それがどうしたんだ」

「僕ね、ママとの赤ちゃんが欲しいよ」

「…そっか。俺との赤ちゃんが欲しいのか」



(俺との赤ちゃんか…)

男に戻るかどうか。

もし子供が出来ちまったらあの店主に会って男に戻ればいい、そう思っていた。

…けど今の一言でもう、そんな事どうでも良くなってしまうた。





「しょうがない子だな♥それじゃあ、ママの
中にいっぱい射精しなくちゃダメだぞ♥」

「うん、する！ママの中にいっぱい射精する！」

「あんっ♡いきなり、激しすぎっ、もっとゆっくりっ♡」

「ごめん、でも一秒でも早くママを孕ませたいんだもん！」

弟の性欲は留まることも知らないように荒々しく腰をぶつけてくる。





「っ♥あっ♥いい、これいいのっ♥」

膣内をチンコが抉るように動き我慢できずに
艶声が漏れてしまう。

はあはあ♥

ぬっ♥
ぬっ♥



「あぁっ♥♥すっごっ♥♥いつもよりおっきいっ♥♥俺を孕ませたくてそんなに興奮してるんだあ♥♥」

「ひう♥♥しきゆうのおくう♥♥コンコンってちんこぶつかってるのいいの♥♥」

おめはあ

すっご

すっご



「ひっ、ひっっ…♡あ、ああ♡チンポ凄い…♡」

「あっ♡ああっ♡もう、ダメえ♡いつちやう…っ♡」

「ママ、僕もイクよ!」

ずぶ♡
ずぶ♡

ああ♡
ああ♡

「んんっっっっっ♥♥♥」

逃げられないように押さえつけられながら
一番深いところへ射精される。

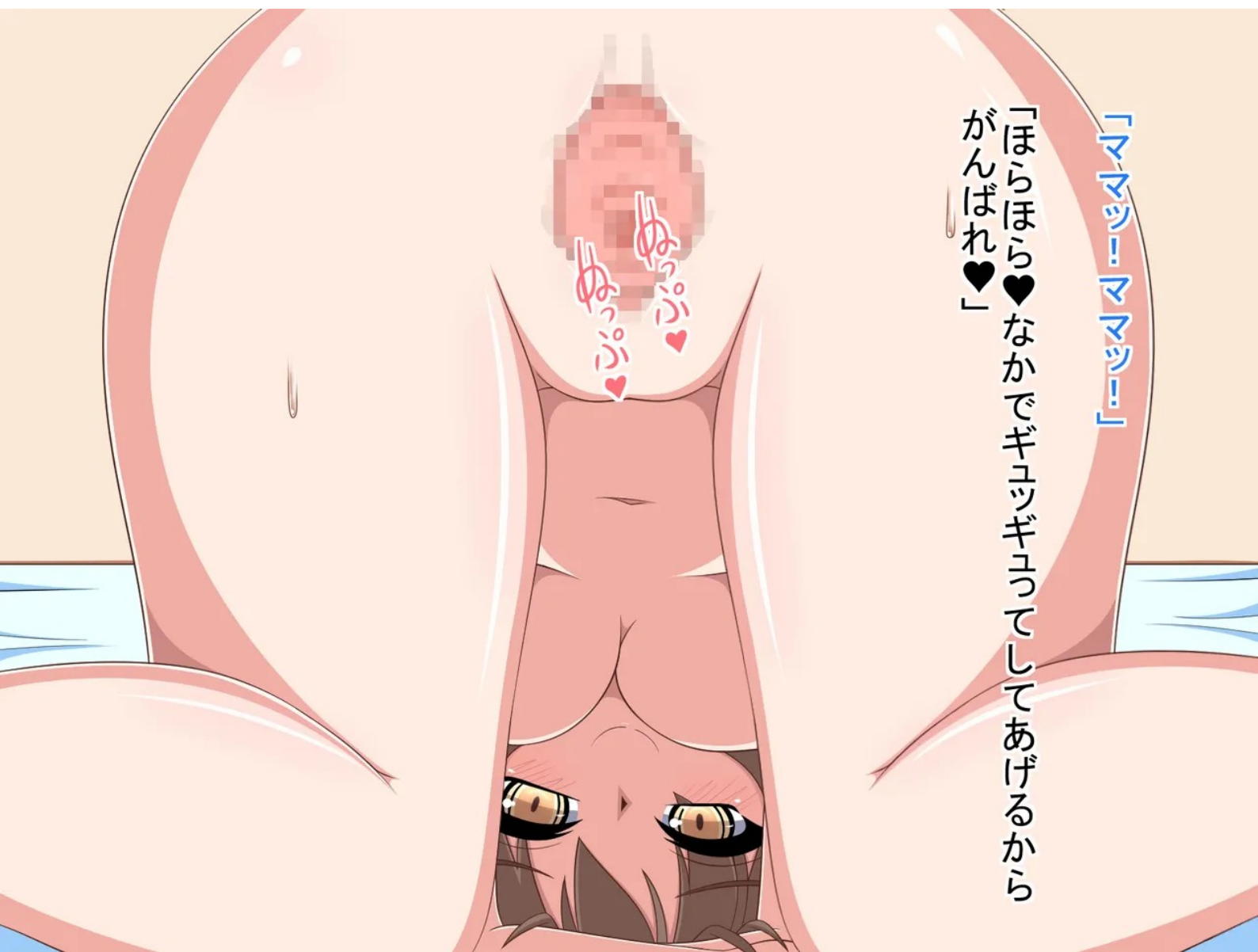
あまりの快楽に頭がクラクラしてしまふ。





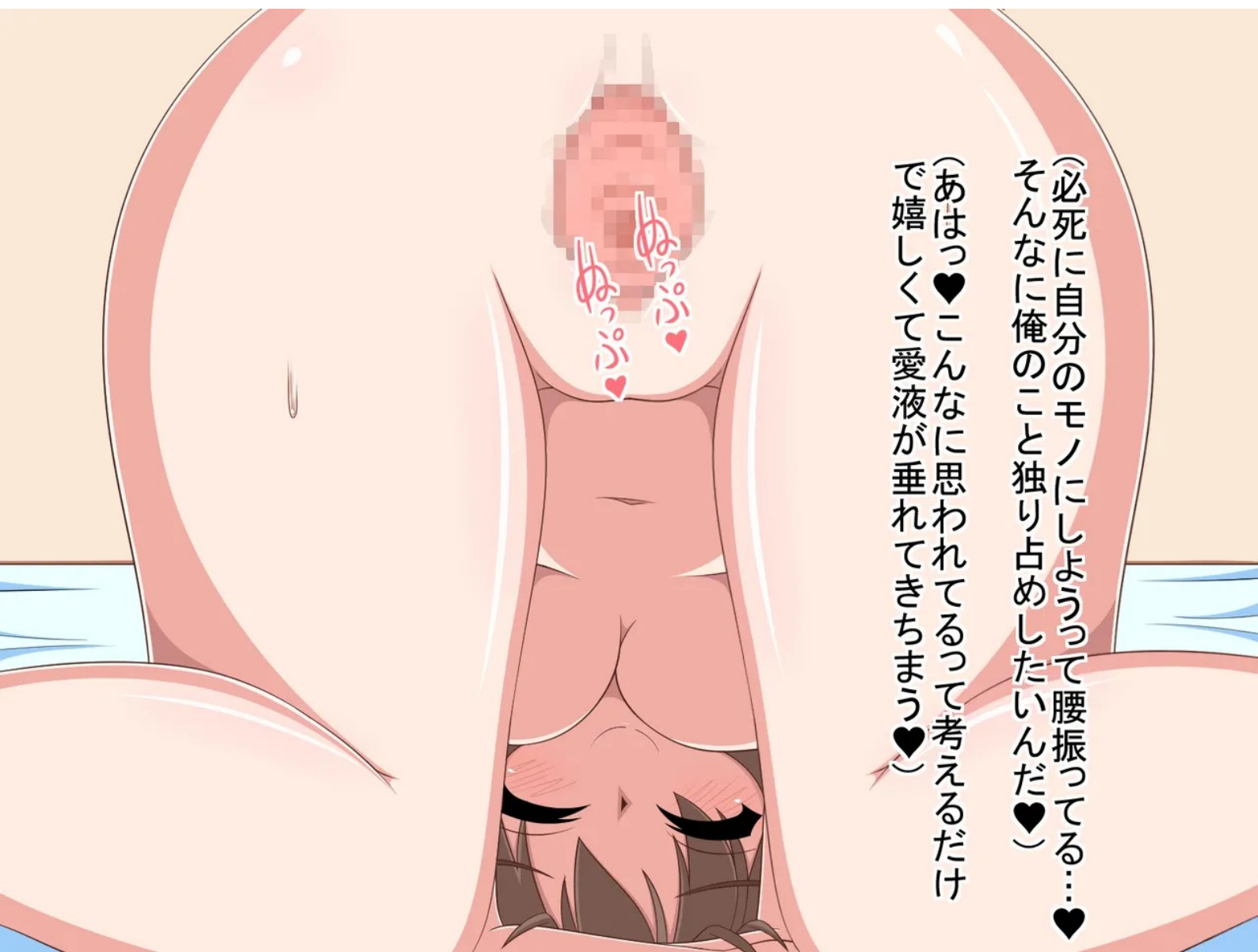
「あはっ♥温かいドロドロしたのが中にビュルビュル拡がってる♥」

(んっ♥子宮に精子が入ってきて俺喜んじやってる♥後戻りなしの種付けセックス気持ちよすぎ♥)



「……ツツツツ……」

「ほらほら♥なかでギュッギュッとしてあげるから
がんばれ♥」



(必死に自分のモノにしようって腰振ってる…
そんな俺のこと独り占めしたいんだ♥)
あはっ♥こんなに思われてるって考えるだけで嬉しくて愛液が垂れてきちゃう♥)



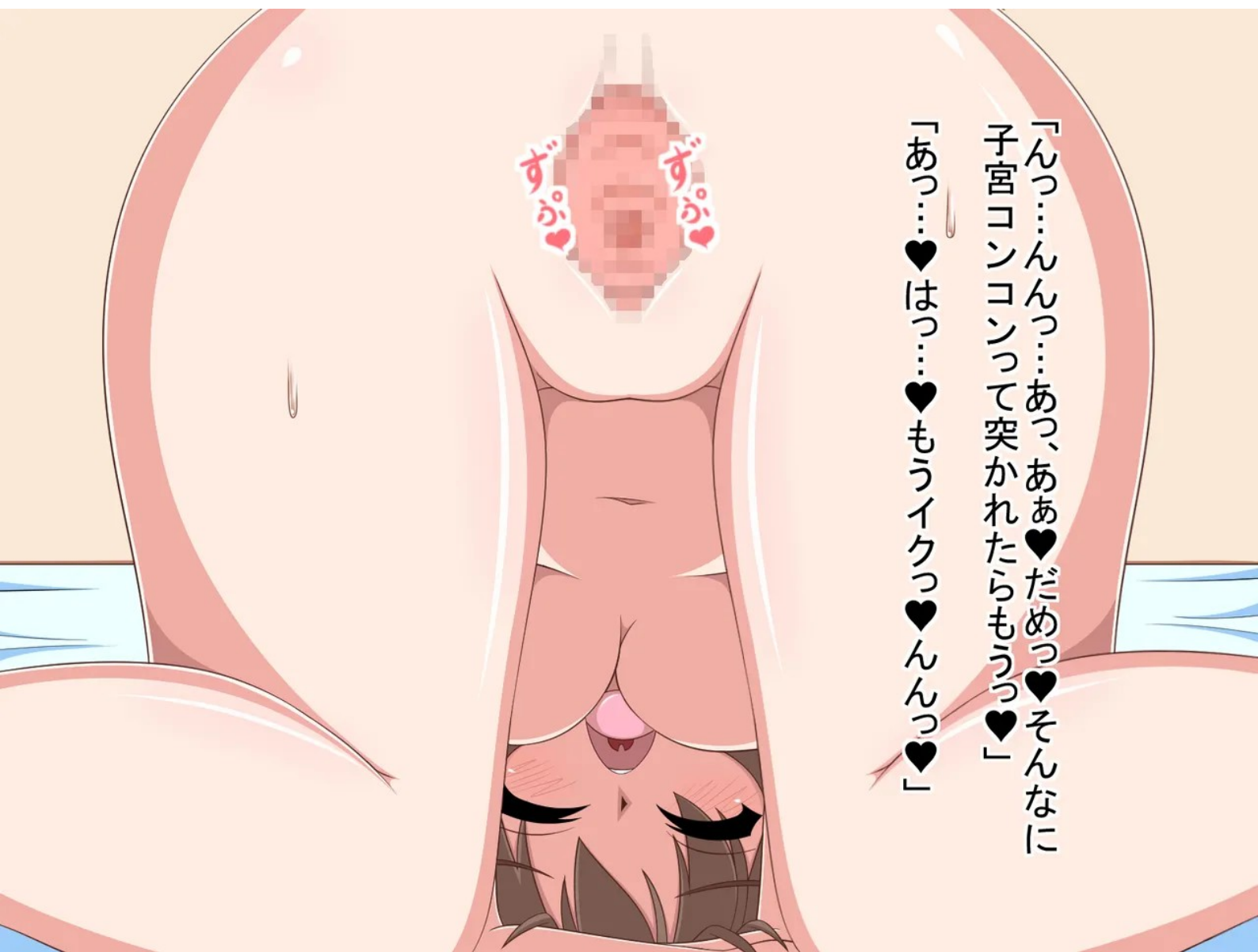
「っ！ママのトロトロのおまんこがニユルニユル絡み付いて気持ちいいよっ♥」

「ママも僕のチンコ気持ちいいよね？ほら、ママの子宮、僕のチンコに吸い付いてきてるよ」



ずがずが

「んっ♡チンポ欲しいって子宮が降りて来ちゃつ
てる♡あうっ♡そんなグリグリ腰押し付けられ
たらおかしくなるう♡」
「ひぐうっ♡は、激しい♡硬いのが奥まで…っ♡」



「んっ…んんっ…あっ、ああ♥だめっ♥そんなに子宮コンコンって突かれたらもうっ♥」

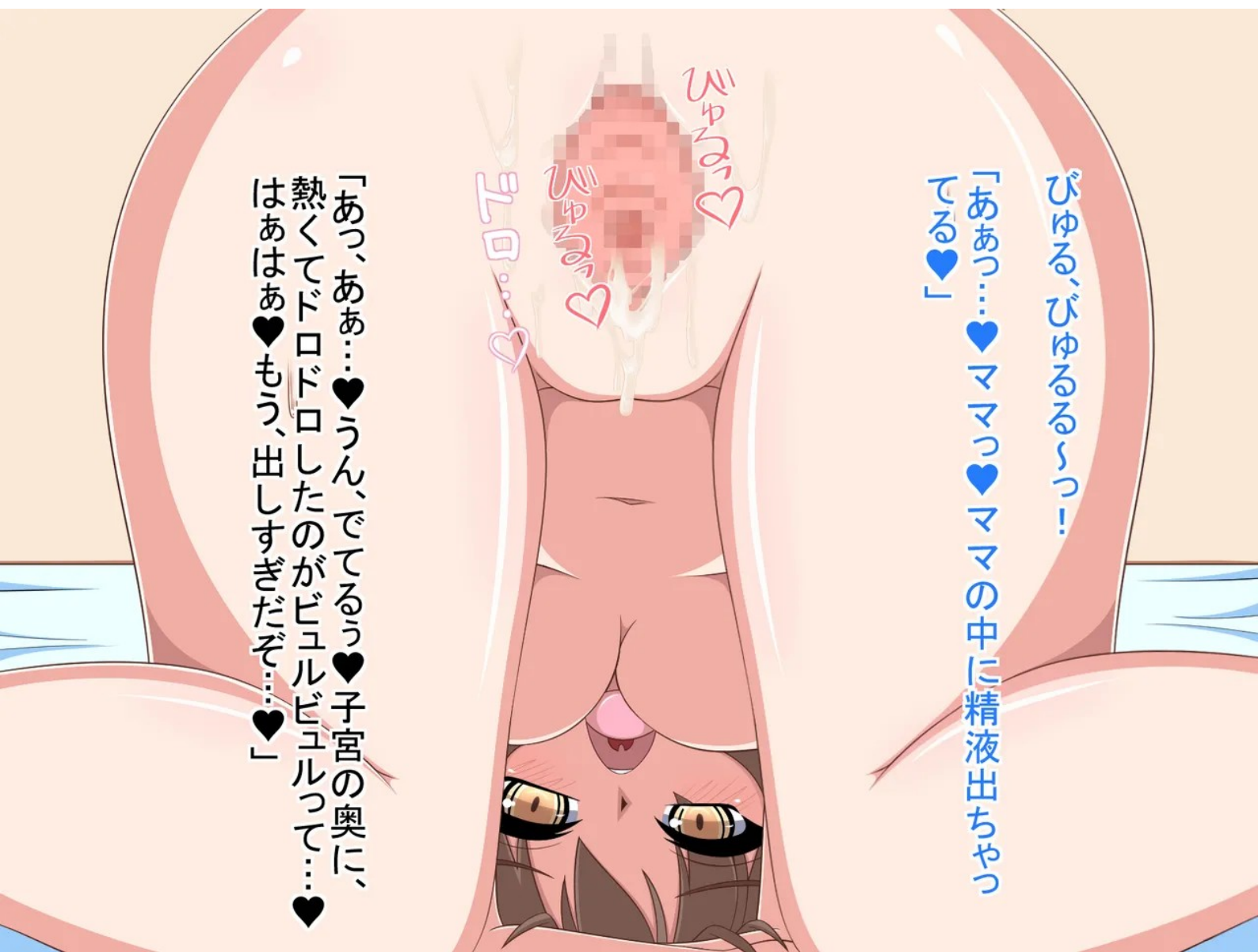
「あっ…♥はっ…♥もうイクっ♥んんっ♥」

びゅる、びゅるるっ！

「あぁっ……♡ママっ♡ママの中に精液出ちゃっ
てる♡」

ひゅるっ♡
ひゅるっ♡
エロっ♡

「あっ、ああ……♡うん、でてるっ♡子宮の奥に、
熱くてドロドロしたのがビュルビュルって……♡
はあはあ♡もう、出しすぎだぞ……♡」



「後ろからおっぱい揉みながら腰振るなあ♡
ひゅっ♡やあ♡だめ♡揉みながら突かれたら
感じすぎちまうっ」

「でもママの乳首でんでんしてるよ。「うやっ
てされるのが好きなんですよ♡」

「んっ♡はあひい♡あああ♡」

はあはあ♡

んっ♡





最近は本気の種付けセックスばかりしている。

俺も、もう元の体に戻るつもりはないし、その内
本当に弟の子を孕んでしまうのだろう。

だがそれを楽しみにしている自分がいる。
中に出される度に体が喜びで震えてしまうのだ。

「ママ好きっ！僕の赤ちゃんは孕んで！」

「あっ♥やあっ♥う、動きながら耳元で好きって
言っちゃだめえっ♥ひゃんっ♥」



「あああああ…っ♡イっちやう♡子作りセックス
でイっちやう♡」

「うっ…、ママだすよ！僕の精子で妊娠して！」

「うん、きてえ♡一緒に♡一緒にイっごう…♡」



「あ♥ああ♥♥♥でてるっ」

「お腹の奥にっ…♥いっぱい出されちゃったあ♥」





「あっ♥ああっ♥お腹のおく、ぐりぐりしない
でえ♥」

（こんなに求められて俺、嬉しすぎて子宮が
疼いてる♥あっ♥…ああ♥…やばいっ♥もう
堕ちちやってる♥）

たぶ
たぶ

たぶ
たぶ

びん
♥

ちよほ
♥

しん
♥

弟のチンコでだらしなく喘ぐ俺。

ひく♡
今の俺の姿を見て元男だっってわかる奴は
いないだろ。

俺自身の中の男はもう残ってない。

そう俺の心はもう女になってしまっている。
そして俺はひたすらに弟を求める。

165 165 165

ちよぽ♡

♡



「あっ♥ああっ♥チンポお腹の中でビクン
ビクンって大きくなってる♥ひうっ♥中に
出したって脈打ってるの伝わるう♥」

ちゅぽぽ

たぶ たぶ

ちゅぽぽ



「あっ…あああああ…❤️」

「ママのオマンコ僕のチンコにチュウチュウ
吸い付いてきて、もう出ちゃうっ!」

「だして♥ママに赤ちゃんの素いっぱい頂戴♥」

165 166

ちよぽの♡

♡



「ひぐっ♡精子ビチャビチャって赤ちゃんの
部屋に入ってきたあ♡ああああ♡卵子出て
きちゃってる♡排卵しちやってるう♡」

「卵子犯されちやってる♡妊娠しちやうっ♡」

たぶ
たぶ

ひやん♡

ひやん♡

エロ...♡

「俺の中にあんなに出したのにまだ力チ力チな
んだな♥」

「まったくしょうがない奴だ。ほら、手でシコシコ
してやる」



「ん♡ちんちん熱くて火傷しちやいそうだ」
「それにしてもあれだけしたのにまだこれと
か、こんなんじゃ近いうちに絶対妊娠しちや
うからな」

はあ
はあ♡

ん♡

ん♡♡♡♡♡

ぐに...

ん♡♡♡





「…って。妊娠させたいからこんなに出しちゃったんだもん♥もうお腹の中お前の精液でタプタプだぞ♥」

ん♥

ん♥

ん♥

ん♥

はあ
はあ♥

「あはっ♥ビクンビクンって跳ねたあ♥
そんなにママの手が気持ちいいのか？」

「うん、ママの手すべすべしてすごい気持ちいいよ♥」

「ん♥それじゃあママの手でいっぱいゴドゴドしような♥」

はあ
はあ♥

ゴドゴド♥

びく...

ゴドゴド...

ん♥



「うっ…ママ、もう僕っ…」
びゅるっ…びゅるる…

「っ♡いっぱい出せたな♡えらいぞお♡」

「ほら、手の中お前の精液でべとべとだぞ♡」

ん♡

びゅる♡

びゅる♡

びゅる♡

はあ
はあ♡

「ふふ♥いっぱい出しすぎて疲れちゃったか。
じゃあ今日はもう一緒に寝ようか」

「起きたらまた『ママ』がいっぱいエッチして上
げるからな」

(これからもずっと、ずっといつまでも…♥)

END

ん♥

トロ…♥

♡…♡…♡

はあ
はあ♥



































































































































































































